

水産海洋研究, 県単独事業 (メカジキの流通対策)

加藤美奈子*

本県の主要な漁船漁業は、夏季のパヤオ漁業と秋～初夏のソデイカ漁業およびまぐろ延縄漁業などがある。一方、漁船漁業の経営安定化のためには、複数の漁法、魚種を対象にした操業により漁協への水揚げ量および市場流通動向の変化に対処することが望ましい。現在、その可能性を期待されているのがメカトラップを使ったメカジキ漁法である。本漁法は、沖縄のソデイカ旗流し漁法を導入した東京都小笠原諸島の漁業者が、当地でメカジキを漁獲するために改良し、再び本県に逆導入された経緯をたどる。そのため、使用する漁具構成がソデイカ旗流し漁具と極めて類似しているため、本漁法導入に要する初期投資が小さく簡便な変更により沖縄でソデイカ漁を営むほとんどの漁船が対応可能である。また現状におけるメカジキの資源量も中位程度と評価されており、当面、資源管理に対する問題が少ない魚種である。このことについては、「平成 26 年度国際漁業資源の現況」において詳細が掲載されているので、これを参照されたい。今後は漁船漁業としての採算性が問われるところであるため、

流通面と漁業のコストに関わる問題について検討を行う必要がある。

本事業は、主に当センター普及班が品質面（神奈川県水試と共同実施）と販売促進について担当し、海洋資源・養殖班が漁獲統計をもとに、漁獲傾向について分析を行った。その結果、本県で最も水揚げ量が多い泊市場では、20-50kg 階層のサイズのものが主であることが分かった（図 1）。また、単価は 400-800 円/kg 階層が主流で、ピークは 500 円/kg の階層だった（図 2）。また、1998-2014 年の平均漁獲量を月別にみると、6-11 月にかけて少ない傾向がみられたが、2014 年においては 7-8 月の漁獲が多くなっており、従来の傾向と異なっていた（図 3）。平均単価については、4 月と 8 月にピークが見られたが、2014 年では 8 月にピークがあったが、月ごとの変動が激しい様子がうかがえた（図 4）。

なお、事業計画において当初予定していた漁場開発については、マグロ・カジキ類漁場開発事業で実施することとなったので、本報告では割愛する。

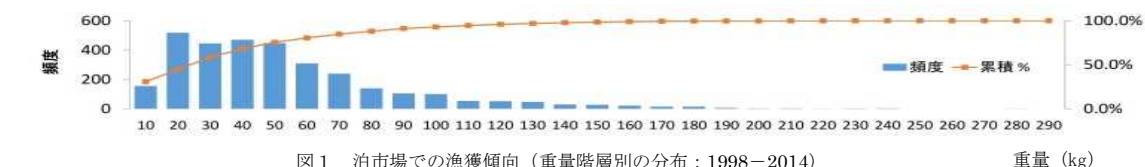


図 1 泊市場での漁獲傾向（重量階層別の分布：1998-2014）

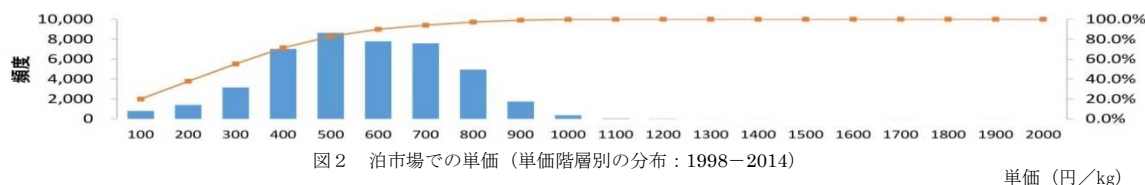


図 2 泊市場での単価（単価階層別の分布：1998-2014）

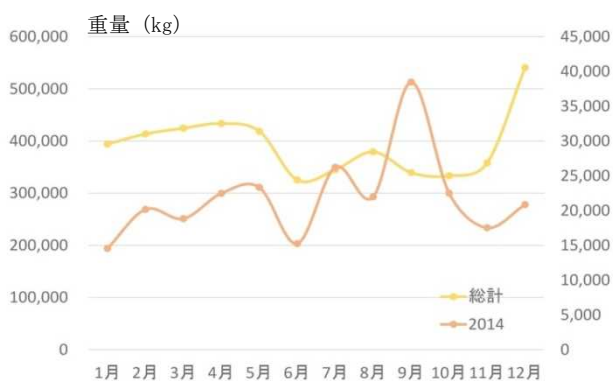


図 3 1998-2014 年泊市場の月別平均漁獲量 (kg) と 2014 年の比較

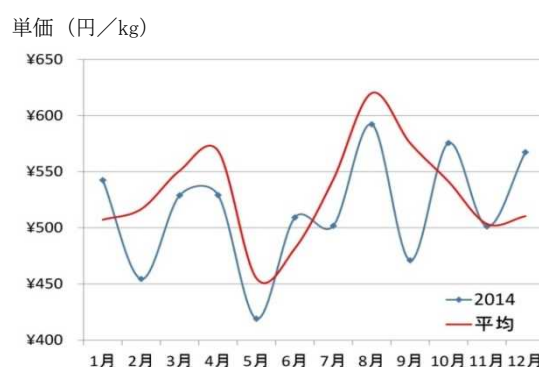


図 4 1998-2014 年泊市場の月別平均単価(円/kg) と 2014 年の比較

* E-mail : katoumnk@pref.okinawa.lg.jp , 本所